

平成 27 年度鈴鹿工業高等専門学校専攻科入学式 校長式辞

本日、春の香りが満ち溢れ、桜花美しき、この良き日、平成 27 年度鈴鹿工業高等専門学校専攻科入学式を挙行できますことを、大変嬉しく思います。学科での優秀な成績に基づいた推薦や、厳正な選抜試験を乗り越えて入学された 30 名の専攻科入学生の皆さん、誠におめでとうございます。教職員一同を代表して心からお祝い申し上げますとともに歓迎いたします。

高専の専攻科は、本科の教育の基礎の上に立って、専門領域における高度の知識・技能を使いこなすとともに、複合領域に対応できる幅広い視野を身につけ、高度の課題設定・問題解決能力を備えた創造性豊かな実践的技術者の育成を目指すものです。

電子機械工学専攻、応用物質工学専攻からなる本校の専攻科は、全国高専の草分け的な存在の一つとして 1993 年に創設され、本年で 22 年目を迎えます。2003 年には、本科の 4、5 年と専攻科を合わせた 4 年間の「複合型生産システム工学」プログラムが、日本技術者教育認定機構（JABEE）の認定を受けました。このプログラムの学習・教育目標を達成し、本専攻科を修了することにより、国際的に活躍できるエンジニアとしてのスタートを切る、お墨付きを得ることができます。さらに大学評価・学位授与機構から学士の学位が授与されます。皆様方は、2 週間前の卒業式に参加し、修了生が、専攻科修了証、JABEE プログラム修了証、学位記の三つを手にしたことを覚えていると思います。

本専攻科に入学した皆さんは、大学の 3 年次学生に相当しますが、一般の大学 3 年次学生より高度な専門的な知識ならびに技能を修得していると断言できます。専攻科入学後はこの専門的基礎の上に立ち、一層の努力が求められます。ただ、ともすれば同じキャンパスで学業を営むことになりますので甘えが生じるかもしれません。積極的に外の世界に接する努力をしてほしいと思います。

さて、21 世紀は、新しい知識・情報・技術が社会発展の重要な基盤となる「知識基盤社会」の時代であるといわれています。この知識基盤社会を支えるためには、物的資源の乏しい我が国においては他の国にも増して、人的資源の役割が重要な位置を占めます。この人的資源の充実に当たっては、豊かな基礎的・専門的学力をベースに、社会や学術の要請に応じた柔軟な創造力、そして厳しい国際競争に打ち勝つためのコミュニケーション力を備えた人材が必要です。これらの創造力、コミュニケーション力を養うために、たゆまぬ努力をしていただきたいと思います。

そして、専攻科では一層の研究力の向上とグローバル力のアップが求められます。研究を楽しくするかどうかは皆さんの姿勢にかかっていますが、私は新しいことを考え、それを形にする行為は最も人間らしい行為で、そのような行為に携わることができるということは楽しいことだと思っています。そして、その研究のポイントは新規性です。既往の研究で成しえなかった課題を探し出すことが重要になります。課題を見つけ、研究テーマとする時点で研究論文が

半分以上完成といっても過言ではありません。さらに、社会的有用性が加わると、その研究は鬼に金棒です。新規性と有用性を研究の両輪として意識し、楽しんで研究に励んでほしいと思います。

次はグローバル力のアップです。最も身近なところでは、やはり英語力の向上に取り組んでいただきたい。TOEIC のスコアに目標を持ち、卒業時にはできたら全員が 650 点以上をとってほしいと思います。それには毎日 15 分でも、30 分でもコツコツ勉強をしてほしいと思います。私のモットーは「牛歩千里」ですが、「牛の歩みも千里をなす」です。

さらに、加えて、日本を知り、世界も知る勉強をしてほしいと思います。そのためには積極的に海外に出かけてほしいし、歴史、文化、経済、社会、政治といった人文、社会科学の分野にも教養を広げていただきたいと思います。教養について、小泉信三慶應義塾大学元塾長は、「すぐに役に立つことは、すぐに役に立たなくなる。逆に言えば、教養とは、すぐに役に立たないが、まるで漢方薬のようにじわじわ効いてくるもの」であると。これからの学校生活において一層の教養力の向上も期待します。

さて、専攻科修了後は社会人として働きたいと就職する人もいるでしょう。研究心旺盛な人は大学院へ進学もするでしょう。そのような将来に備えて専攻科 2 年間で自分らしさを見出し、自分にあった道を選んでください。未来の社会は皆さんが創ることができます。この新しい社会の担い手になるべく、専攻科 2 年間の生活を有意義に過ごしてください。皆さんの更なる成長・発達を願って、お祝いのあいさつとします。

平成 27 年 4 月 6 日

鈴鹿工業高等専門学校長
新田 保次